

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和8年(2026年)2月26日 札幌市立南が丘中学校

1. 本年度の重点目標

「人間尊重の教育」の推進 生徒の声を聴く

2. 本年度の経営方針

1. 生徒の声を反映した「自治的な活動」の充実をはかる。(地域や家庭と連携した生徒会活動)
2. 教職員も自らの思いを表現する。(職場の同僚性の発揮)
3. 生徒自身の意識を高め、相互承認の感度を向上させる。(自己肯定感・自己有用感の醸成)
4. 学ぶ喜びを味わうことができる学習活動を推進する。(AARサイクルの視点に立った学習活動)
5. 多様性を受容する学校空間を創造する。(個々の特性に配慮したハード面、ソフト面の充実)

3. 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育課程	1 本校の生徒は、楽しい学校生活を送っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日課に余裕をもたせつつバランスのとれた教育課程を編成した。全教職員の理解と協力の下、着実に実施することで、生徒が「楽しい学校生活」を送ることができていると考える。 ・今年度生徒会活動と連携して「あ・い・さ・つキャンペーン」を実施し、啓発に努めた。 ・体育大会、体育科の授業や昼休みの運動機会の増加を通して「運動に親しむ指導」を継続することができた。スキー学習の代替として「雪に親しむ取組」を実施した。 ・今年度の反省に基づき、来年度の計画を立案していきたい。 	A	A
	2 教職員はめざす姿「あ・い・さ・つ」(あいさつ、いのちを大切に、さわやかマナー、伝える伝わる)の実現に努力している。	A			
	3 教職員は札幌らしい特色ある教育「雪・環境・読書」にきちんと取り組んでいる。	A			
	4 道徳の時間でよりよい生き方について考えさせている。	A			
	5 健やかな体の育成のために、授業、陸上記録会等の行事、昼休みの体育館開放等、運動不足・体力低下を防ぎ、運動に親しむ指導の工夫を行っている。	A			
学校関係者評価者による意見	・スマホ等の影響で運動量が低下している現状では学校での体力向上の取組は重要である。・アイスアリーナでのスケート体験も有効である。・新しい「雪と親しむ取組」は評価したい。・小学校ではアスリート派遣事業を活用し、冬季五輪の映像を観たり、出前講座でお話しを聴いたり、「模擬体験」等も行っている。・生徒の評価が高く「あ・い・さ・つ」は定着していると考ええる。				
学習指導	6 「わかる授業」をめざした授業改善がなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導では、生徒・保護者が項目7においてB評価になっているように、本校の課題である。日常の授業や教育相談等の場面をはじめ、さまざまな機会を捉えて家庭学習の定着・充実を指導しているが、さらに保護者への呼びかけや連携を継続し「わかる授業」と協働的な学びを育む授業実践、チームティーチングや少人数指導の指導方法について、一層の工夫、改善を継続することで、生徒の学習意欲を高める努力を続けたい。 ・1人1台端末については、活用の日常化が進み、生徒のスキルは向上している。今後は、情報モラルの浸透、(活用方法、活用内容、使用時間の適正化等)ICTに対する自律的な使用になるよう、保護者とも協力しながら指導を推進していきたい。 	A	A
	7 生徒の学習状況に応じて、学習の進め方について適切な指導をしている。	A			
	8 生徒の取組の過程を、適切に見取る評価・評価が行っている。	A			
	9 ティームティーチングや少人数指導が効果的に実施されている。	A			
	10 一人一台端末を適切に活用している。	A			
学校関係者評価者による意見	・小学校段階から「勉強の仕方」「学び方」も指導し中学校へ連携を図りたい。・自分で調べて発表するような課題探究的な学習が「主体性」を育むポイントである。・対面でのコミュニケーションの重要性を認識しながら、「個に応じた対応」を継続し、家庭へのフィードバックの工夫を継続してほしい。				

分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	11	組織的に問題行動の早期発見・指導・予防に取り組んでいる。	A	<p>・全体的に高評価となっている。生徒に寄り添った丁寧な取組が形となって表れていると考える。今後もよりよい生活習慣の確立やいじめ防止等の啓発活動に加え、生徒一人一人を大切にしたい。心温まる関わりを日常的に意識して指導していきたい。</p> <p>・生徒への積極的な声かけや相談指導体制を充実させ、事案に対して組織的かつ即時的に対応していくと共に、保護者や地域ともこれまで通り連携を図っていく。</p> <p>・1人1台端末(Chromebook)、インターネットやスマートフォンの安全な使い方に関する指導を適切に行い、家庭への情報提供にも努めていく。あわせてスマホ安全教室を継続して開催すると共に様々な場面での教育を充実させることで、家庭とも協力しながら情報モラルやメディアリテラシーの向上に努めていきたい。</p>	A	A
	12	年2回の教育相談をはじめ、生徒が先生方に相談できる体制が整っている。	A			
	13	教職員は、挨拶、適切な礼儀・マナーが身に付くように指導している。	A			
	14	教職員は生徒に対し、積極的に挨拶や声掛けをしている。	A			
	15	教職員は、生徒のことを理解しようと努めている。	A			
	16	インターネットやスマートフォンの安全な使い方を指導している。	A			
学校関係者評価者による意見	<p>・いじめは初動が大切で生徒に寄り添って対応している姿勢がよい。・「あやまる」ことを学ぶことも必要で「あやまる」ことを通して人間関係を学ぶこともある。・挨拶とは「人に近づいて、心を開く」ということで、お互いに先に声をかけることが基本である。・生徒の回答から教職員との強い信頼関係を感じた。・スマホについては、家庭と連携して継続的に指導してほしい。</p>					

特別活動	17	生徒会活動や委員会活動が活発に行われている。	A	<p>・委員会、生徒会活動については高評価となっている。今年度は、ラベンダープロジェクトやノーチャイムDAYなど「人間尊重の教育」の推進に向けた自治的な活動を行ったが、今後も生徒一人一人が大切にされていると感じることができている学校を目指し、指導の質を向上させていきたい。</p> <p>・来年度は「総合的な学習の時間」と「特別活動」について、より効率的な時間配分と内容の改善を図っていきたい。</p> <p>・進路指導においてはキャリアパスポートを核に据えた進路指導を今後も継続していく。</p>	A	A
	18	総合的な学習の時間(旅行的行事の事前事後学習、1年環境、2年職場体験、3年国際レポート等)は興味をもって取り組めるように指導している。	A			
	19	旅行的行事、南が丘祭などの学校行事に、生徒が意欲的に参加できるように指導している。	A			
	20	進路学活や進路相談で、卒業後の進路や将来の生き方を考えるように指導している。	A			
学校関係者評価者による意見	<p>・学校祭のステージ発表のパフォーマンスが素晴らしく、演者と観客の双方が「充実感」を得られたようだ。・学校行事や「総合的な学習の時間」等で取り組んでいるプレゼンテーションは生徒の「主体性」を養う上で有効である。・自己表現する場面は大切で、生徒が生きて表現していることは、学校が生徒ひとりひとりにとって「確かな居場所」になっている証左である。・今後も、生徒・保護者・教師が意見交換しながら一緒に進路指導を進めていってほしい。</p>					

その他	21	学年・学校だより、ホームページ、学校メールで、学校の情報を積極的に発信するように努めている。	A	<p>・情報の発信については、学校だより等やホームページ、すぐるによる発信・連絡に努めてきた。</p> <p>・期末懇談会や部活動、PTA活動等が保護者や地域の理解と協力を得ながら行うことができた。安全教育、個人情報の管理を今後も適切に行っていききたい。</p> <p>・「小中一貫した教育」については、札教研事業・春の研究集会(6月)、児童生徒理解のための研修会(8月)で教職員間の連携を深め、子どもサミットの取組では児童会と生徒会、ラベンダープロジェクトでは小学校と中学校との交流を深めることができた。パートナー校間の交流、連携を継続し、令和9年度からの学校運営協議会設置につなげていきたい。</p>	A	A
	22	期末懇談会は、保護者との共通理解や連携に役立っている。	A			
	23	火災や地震、感染症対策など、避難訓練を含め安全教育が十分に行われるように指導している。	A			
	24	部活動が適切に運営されるように指導している。	A			
	25	個人情報の管理が適切に行われている。	A			
学校関係者評価者による意見	<p>・避難訓練がしっかりと行われており、生徒が安全安心に活動できる環境が整っていることがわかる。・ラベンダープロジェクトの一環として、町内会の催し物にラベンター作品を出品し生徒が発表をした。たいへんうれしく、有り難いことだった。これからも地域との関係を大事にしていってほしい。・現在の学校規模で、多くの部活動が活発に行われていることもよい。</p>					